

2008年3月(先月の重大ニュース)

教育再生会議が最終報告

政府の教育再生会議は、「社会総がかりで教育再生を」と題した最終報告を福田首相に提出した。「德育」を教科にすることや「ゆとり教育」の見直しなどを盛り込んだ。首相は、提言の実現度合いを点検する後継会議を内閣に設置する考えを表明した。(31日)

環境や食糧などの問題解決は「科学技術で」

地球環境や食糧などをめぐる社会の新たな問題が科学技術で解決されると考えている人が62%にのぼることが、内閣府の調査でわかった。前回の04年調査での35%から大幅に伸びた。調査は、1981年から3~6年おきに行っている。今回は07年11月末~12月上旬、全国の20歳以上の3000人を対象に実施し、56%から回答を得た。(2日)

「18歳成人」議論開始

鳩山法相は、成人年齢を18歳に下げるか20歳のままにするかを議論するため、法制審議会に諮問(意見を求めること)した。憲法改正の手続きを定める国民投票法(2007年5月成立)で投票年齢が18歳以上とされたのに伴うもの。法制審議会は3月にも議論を始め、1年がかりで答申をまとめる予定。(13日)

神奈川県が高校の日本史必修へ

神奈川県教育委員会は、全県立高校で「日本史A」「日本史B」、県が独自でつくる「郷土史」など計4科目から最低1科目の履修を生徒に義務づける方針を明らかにした。高校の新しい学習指導要領が実施される13年度までに始める。(14日)

東芝がHD-DVD撤退

東芝は、ハイビジョン画像の再生・録画ができる次世代DVDの規格として普及を進めてきた「HD-DVD」から撤退することを発表した。ソニーや松下電器産業が推進する「ブルーレイ・ディスク(BD)」が国内シェアで圧倒的であることや、米国の映画大手などがBD支持に回ったことなどが理由。購入者への修理などは続けるという。(19日)

知床世界遺産進まぬ「宿題」

北海道の知床半島が世界自然遺産に登録された際、ユネスコ世界遺産委員会から求められていた海域の保全対策づくりなどの現状を評価するため、国際自然保護連合(IUCN)などが現地調査をした。絶滅危惧種のトドとそのエサのスケトウダラの保護策など、一部の取り組みについて不十分と改善を求めた。今回の調査結果は7月の世界遺産委員会で報告され、委員会は保全策が必要な「危機遺産」入りを検討する。危機遺産に指定されて改善されなければ、登録抹消の恐れもある。(20・21日)

太陽系に新惑星の可能性

太陽系の外縁に、地球とほぼ同じ大きさの「惑星X」が存在する可能性を、日本の研究グループが数値計算で明らかにした。約1000年かけて太陽の周りを公転しているという。太陽系の惑星は、2006年に冥王星が準惑星に降格され、現在は8個だが、惑星Xが観測で見つければ、冥王星にかわる第9惑星になる可能性が高い。(28日)